

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392031			
科目名	コミュニケーション技術	年次配当	1年次
担当者	井手添 陽子	開講時期	通 年
所 属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	演習		
単 位 数	2単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<b>授業概要</b>	
人間関係形成におけるコミュニケーションの重要性を理解し、演習等により技術の習得を図る。介護の必要な人に応じたコミュニケーション技術を学ぶ。	
<b>到達目標</b>	
人間関係形成のためのコミュニケーション技術の基礎を理解する。 介護を必要とする人との援助的コミュニケーションが図れる能力が習得できる。 介護現場で情報を共有化するための記録・報告の技術が習得できる。	
教科書(テキスト)	テキスト以外
介護福祉士養成講座編集委員会 (編) 「コミュニケーション技術」中央法規	適宜プリント配付・ビデオ等使用
<b>評価方法</b>	
定期試験70%、課題・レポート20%、発表・授業態度10%	
<b>学生に対するメッセージ (準備学習等)</b>	
介護は、人間関係の上に成り立つものです。そのためにもコミュニケーションは欠かすことのできない重要な技術です。 まずは基本となる「聴く」「話す」ことに取り組んでみましょう。	

<b>授業計画</b>			
1	オリエンテーション(進め方・展開方法)	16	コミュニケーションの基礎的技法⑦
2	人間関係形成とコミュニケーション①	17	利用者の特性に応じたコミュニケーション①
3	” ②	18	” ②
4	” ③	19	” ③
5	コミュニケーションの基礎的理解①	20	” ④
6	” ②	21	” ⑤
7	” ③	22	” ⑥
8	” ④	23	チームのコミュニケーション—チームケア①
9	” ⑤	24	” ②
10	コミュニケーションの基礎的技法①	25	” —記録①
11	” ②	26	” ②
12	” ③	27	” ③
13	” ④	28	” —報告・相談①
14	” ⑤	29	” —報告・相談②
15	” ⑥	30	” —会議・まとめ

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

302034			
科目名	日常生活支援技術 A	年次配当	1 年次
担当者	米原 あき	開講時期	通年
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	演習		
単位数	2 単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

人の身体の構造・機能や「生活」における移動の役割など、基本的知識を深めた上で、実際のケアの留意点や根拠を学ぶ。理論を実践につなげるために、演習を通して「移動介護」の介助方法を身につける。

到達目標

日常生活支援技術の「移乗・移動」に関する基礎知識と、安全・安楽な介助方法を身につける。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
介護福祉士養成講座編集委員会(編) 「生活支援技術Ⅱ・Ⅲ」中央法規	建帛社 「新版介護技術」・ビデオ

評価方法

定期試験 80%、実技 10%、授業態度 10%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

「生活」における移動の支援の演習を通して体験します。基本知識をもとに、安全・安楽な「移動介助」の支援方法を身につけます。

授業計画

1 移動の意義と目的	16 福祉用具を使つての車椅子移乗介助
2 人の体の構造・機能①	17 リクライニング車椅子の機能・使い方
3 人の体の構造・機能②	18 チルトリクライニング車椅子の介助①
4 移動介助の基本視点	19 チルトリクライニング車椅子の介助②
5 ボディメカニクス	20 ストレッチャーの機能・使用法
6 体位変換①	21 ストレッチャーへの移乗介助
7 体位変換②	22 安楽な体位と良肢位
8 起き上がり・立ち上がりの介助	23 安楽な体位の保持
9 歩行介助の基本	24 リフトの機能・使用法
10 福祉用具を使つての歩行介助①	25 リフトを使つた移乗介助
11 福祉用具を使つての歩行介助②	26 利用者の状態・状況に応じた移乗介助の留意点
12 視覚障がい者の人の歩行介助	27 事例を用いた移動介助①
13 車椅子介助の基本	28 事例を用いた移動介助②
14 車椅子の介助(移乗)	29 他の職種の役割と協働
15 車椅子の介助(移動)	30 実技検定

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392035			
科目名	日常生活支援技術B	年次配当	1年次
担当者	米原 あき	開講時期	通年
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<b>授業概要</b>	
<p>食事・排泄のメカニズムを知り知識を深めながら、「生活」における一人ひとりの状態に合わせた食事・排泄の支援を学ぶ。理論を学びながら、演習を通して安全・安楽な食事・排泄介護の技術を習得する。</p>	
<b>到達目標</b>	
<p>日常生活支援技術の「食事・排泄」に関する基礎知識と、専門的な介助方法を身につける。</p>	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト)	テキスト以外
介護福祉士養成講座編集委員会(編) 「生活支援技術Ⅱ・Ⅲ」中央法規	建帛社「新版介護技術」・ビデオ
<b>評価方法</b>	
<p>定期試験80%、実技10%、授業態度10%</p>	
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b>	
<p>「生活」における食事・排泄支援の演習を通して体験します。基本知識をもとに、その人らしい「食事・排泄」の支援方法を考えます。</p>	

<b>授業計画</b>	
1 食事の意義と目的	16 気持ちのよい排泄を支える介護
2 食事摂取のメカニズム	17 自立支援に向けた排泄の介護
3 食生活の援助の基本視点	18 トイレの介護
4 食事に関する利用者のアセスメント	19 ポータブルトイレの介護①
5 おいしく食べることを支える介護	20 ポータブルトイレの介護②
6 誤嚥・窒息防止のための留意点	21 ポータブルトイレの介護③
7 脱水予防の留意点	22 オムツの種類・介護方法
8 感覚・運動・認知・知覚機能が低下している人の介助	23 オムツの介護①
9 食事の介護①	24 オムツの介護②
10 食事の介護②	25 採尿器の介助
11 栄養管理と他職種の役割・協働	26 差し込み便器の介護
12 排泄の意義・目的	27 高齢者によく見られる排尿・便の異常
13 排泄のメカニズムと機能障害	28 利用者の状態・状況に応じた介護の留意点
14 排泄介助の基本視点	29 他の職種の役割と協働
15 排泄に関する利用者のアセスメント	30 実技検定



専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392044			
科目名	認知症の理解	年次配当	1年次
担当者	井手添 陽子	開講時期	通 年
所 属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	講義		
単 位 数	4単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<b>授業概要</b>	
認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活への影響の理解、個々にあった支援に関する知識や方法を学ぶ。	
<b>到達目標</b>	
認知症に関する基礎的な知識を習得し、認知症の人の特性を理解する。その上で、認知症の人が尊厳を持ち人生を継続していくことのできる支援の方法を習得する。	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト) 長谷川和夫編「認知症の理解」建帛社	テキスト以外 適宜プリント配付 ビデオ等
<b>評価方法</b>	
定期試験70%、レポート30%	
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b>	
認知症の人の増加が予測されています。その特性を理解し、その人らしい生活を支援するために介護福祉士として、どうあるべきか考えましょう。 授業の準備として、まず身近な高齢者の生活に目を向けて、自分たちとの相違有無を考えてみましょう。	

<b>授業計画</b>			
1	認知症を取り巻く状況ーケアの歴史	16	治療と心理的アプローチ
2	” ー現状と今後	17	認知症の人に対する介護ー基本①
3	認知症とは	18	” ②
4	認知症と類似した状態①	19	” ーコミュニケーション①
5	” ②	20	” ーコミュニケーション②
6	認知症の診断	21	” ー様々な場における支援
7	認知症の主な原因疾患①	22	家族への支援①
8	” ②	23	” ②
9	” ③	24	権利擁護①
10	認知症の予防	25	” ②
11	認知症の人の心理	26	” ③
12	認知症の経過	27	安心して暮らせる社会へ地域における支援体制
13	認知症の行動・心理症状①	28	総括(レポート発表) ①
14	” ②	29	” ②
15	” ③	30	” ③

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392001			
科目名	音楽	年次配当	1年次
担当者	白石 由美子	開講時期	前期
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

<b>授業概要</b>	
<p>いつでも、どこでも演奏が可能な声、声楽を中心にした授業を行なう。弾き歌いが出来るようにコードネームも習得する。また介護の現場で歌える民謡、明治・大正・昭和の童謡、唱歌、歌謡曲、演歌なども学ぶ。音楽療法の実践も行う。</p>	
<b>到達目標</b>	
<p>介護現場で役立つ歌を習得し、弾き歌い及び簡易楽器などを用いて音楽療法の実践ができる能力を身につける。</p>	
motiite 教科書(テキスト)	テキスト以外 プリント
<b>評価方法</b>	
実践発表70%、小テスト20%、授業態度10%	
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b>	
<p>高齢化社会を迎え、生涯教育の重要性が叫ばれており生涯を心豊かに、創造性に富んだ生活を送るために、音楽の果たす役割は大きい。豊かな自主性に満ちた音楽体験をする事が重要であり、それによって得た「音楽観」は生涯音楽と共に生きる力になると思う。</p>	

<b>授業計画</b>
1 オリエンテーション 2 コードネーム演習① 3 コードネーム演習② 4 明治・大正の音楽(童謡、唱歌) 5 明治・大正の音楽(童謡、唱歌) 6 昭和の芸能と音楽(中田喜直他) 7 昭和の芸能と音楽(演歌、他) 8 音楽療法① 9 音楽療法② 10 音楽療法③ 11 合唱① 12 合唱② 13 課題研究① 14 課題研究② 15 総合発表





専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392028			
科目名	介護総論	年次配当	1年次
担当者	井手添 陽子	開講時期	前期
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	講義		
単位数	4単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

介護福祉士を取り巻く状況、介護福祉士の専門性・役割について学ぶ。  
「尊厳の保持・ノーマライゼーション・自立支援」という介護の基本姿勢を学ぶ。  
科目「介護の基本A」「介護の基本B」の基礎となる内容を学ぶ。

到達目標

領域「介護」の基礎となる介護の意義、介護福祉士の専門性と役割を理解する。  
介護が必要な状態になっても尊厳をもって生活できるよう支援するための基本姿勢を理解する。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
介護福祉士養成講座編集委員会(編) 「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規	適宜プリント配付 ビデオ等使用

評価方法

定期試験80%、レポート・提出物20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

専門職としての、知識・技術・倫理を習得することが求められます。  
習得できたことが実践できるよう学ぶと共に、介護の必要な人の生活・人生に寄り添うことができるよう自分自身の人間的成長を目指しましょう。介護・福祉の動向に限らず、社会の動きを知るためにも新聞・ニュースなどに関心をもって見たり、聞いたりしましょう。

授業計画

1	オリエンテーション(学ぶ意義・目的)	16	介護の概念—対象
2	演習	17	〃 —介護福祉士と介護①
3	介護福祉士を取り巻く状況①	18	〃 —介護福祉士と介護②
4	〃 ②	19	介護福祉士と倫理①
5	〃 —専門職としての介護福祉士	20	〃 ②
6	〃 —演習	21	〃 ③
7	人間と生活の理解—人間の特性	22	〃 ④
8	〃 —生活①	23	〃 ⑤(演習)
9	〃 —生活②(個別性・多様性)	24	介護の理念①
10	〃 —生活③(その人らしさ)	25	〃 ②
11	〃 —演習①	26	介護実践における原則①
12	〃 —演習②	27	〃 ②
13	〃 —演習③	28	〃 ③
14	介護の概念—歴史	29	〃 ④
15	〃 —考え方の変化	30	まとめ

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392032			
科目名	生活支援技術概論	年次配当	1年次
担当者	米原 あき	開講時期	前期
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

テキスト・ビデオなどを基に「生活」を捉えて、介護の基本である「その人らしい生活」を支えるために必要な基礎知識を養う。個別ケアや社会参加に向けた生活支援の必要性を学ぶ。

到達目標

介護福祉士の行う日常生活支援の内容を深く理解するとともに、尊厳保持の観点や自立を尊重した生活の支援のあり方など、介護の基本的な考え方を理解する。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
介護福祉士養成講座編集委員会(編) 「生活支援技術Ⅰ・Ⅲ」中央法規	資料・ビデオ

評価方法

定期試験80%、授業態度10%、提出物10%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

シートや演習を通して、自分自身の生活体系を客観的に考える事で「生活」を理解し、介護における個別的生活支援の重要性を学んでいきます。

授業計画

- 1 「生活」の理解①
- 2 「生活」の理解②
- 3 「生活支援」とは
- 4 「生活支援」の考え方
- 5 ICFの視点と介護過程
- 6 ICFに学ぶ利用者のアセスメント
- 7 自立に向けた移動の介護
- 8 自立に向けた身支度の介護
- 9 自立に向けた清潔保持・口腔ケアの介護
- 10 自立に向けた入浴の介護
- 11 自立に向けた食事の介護
- 12 自立に向けた排泄の介護
- 13 自立に向けた居住環境の整備
- 14 日常生活動作と福祉用具の活用
- 15 他職種との連携

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392033			
科目名	生活環境支援技術	年次配当	1年次
担当者	藤原 賢治	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<b>授業概要</b>	
<p>高齢者や障害者が安心して暮らす為には住環境、社会環境の整備は不可欠となっている。又建築技術、福祉技術も近年大きな変化が見られる。テキストを中心に体験等を通じて社会的弱者が自立できる社会に向けての技術を学ぶ。</p>	
<b>到達目標</b>	
<p>自立して自宅で暮らすには安全で安心できる住環境が必要である。住環境の基礎知識を習得し、自立した生活支援をするため環境整備の重要性と方法を理解する。</p>	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト) 生活支援技術 I	テキスト以外 福祉住環境コーディネーター検定3級テキスト
<b>評価方法</b>	
試験50%、レポート20%、授業態度20%、発表10%	
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b>	
<p>今、福祉行政は元気な高齢者をめざすための政策を最重要課題としています。そのための知識を身につけてください。それは、今後どんな社会になっても必要なものとなる筈です。</p>	

<b>授業計画</b>	
1	居住環境整備の意義と目的
2	住環境における福祉の考え方(1)福祉、ノーマライゼーションの考え方
3	住環境における福祉の考え方(2)ユニバーサルデザインの考え方と自立支援のあり方
4	住環境整備の意義(1) 住生活関連政策と関連法規について
5	住環境整備の意義(2) 日本の住環境の特徴と実態について
6	住環境整備の意義(3) 住環境整備の重要性と必要性について
7	住環境整備の実践的考え方(1) 住宅改修
8	住環境整備の実践的考え方(2) 住宅のバリアフリー化
9	住環境整備の実践的考え方(3) ユニバーサルデザイン
10	住環境整備の実践的考え方(4) 住宅の安全性
11	住環境整備の実践的考え方(5) 住宅の空間構成(玄関・階段・水廻り等)
12	住環境整備の実践的考え方(6) 住宅の空間構成(居室等)
13	体験授業 施設バリアフリー体験
14	体験授業 施設バリアフリー体験
15	まとめ

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392036			
科目名	日常生活支援技術C	年次配当	1年次
担当者	米原 あき	開講時期	前期
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

「生活」における身支度・口腔ケア・衣服の着脱・入浴・清潔のもたらす効果を知り、一人ひとりの状態に合わせた支援の根拠を明らかにするとともに、介助の留意点を学ぶ。演習を通して理論を実践につなげ、支援・介助方法を習得する。

到達目標

日常生活の「身支度、口腔ケア、衣服の着脱、入浴、清潔」に関する知識と、それに対する安全・安楽な介助方法を身につける。

教材

教科書(テキスト)

介護福祉士養成講座編集委員会(編)  
「生活支援技術Ⅱ・Ⅲ」中央法規

テキスト以外

建帛社「新版介護技術」・ビデオ

評価方法

定期試験80%、実技10%、授業態度10%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

「身支度・口腔ケア・衣服の着脱・入浴・清潔」がもたらす効果を知り、利用者が「よりよく生活する」ための支援の方法を学びます。日常生活における介護場面の演習を通し、安全・安楽な介助方法を身につけます。

授業計画

- 1 身支度の意義と目的
- 2 整容の介護
- 3 口腔清潔の意義・目的
- 4 口腔ケア
- 5 衣服着脱の意義・目的
- 6 衣服着脱の介護①
- 7 衣服着脱の介護②
- 8 衣服着脱の介護③
- 9 清潔の意義と目的
- 10 入浴・シャワー浴の介護①
- 11 入浴・シャワー浴の介護②
- 12 全身清拭の介助
- 13 部分浴の介護
- 14 洗髪の介護
- 15 実技検定

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392037			
科目名	家事生活支援技術	年次配当	1年次
担当者	亀崎 幸子	開講時期	前期
所属	生活学科 食物栄養専攻	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

家事の意義と目的を理解し、自立に向けた家事の介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識について理解する。家事の中でも食生活は健康維持に大きく影響を及ぼす。高齢者にとっては楽しみの一つでもある食事に重点を置いて、高齢者の食生活の特徴と留意点等について調理実習を通して理解を深める。

到達目標

個々人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引きだしたり、見守ることも含めた自立に向けた家事の介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識について学ぶことにより、食生活を営む知識を理解するとともに、家族一人一人の健康を考えた食生活を経営管理する能力と態度を身につける。

教材

教科書(テキスト)  
未定

テキスト以外  
未定

評価方法

定期試験80%、授業態度10%、提出物10%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

栄養バランスのとれた食事を楽しみながら、安全に食べていただくにはどんな事を注意して食事を作っていけばよいのか基本的なことを学びます。高齢者の身体的・生理的変化について学習しておいてください。

授業計画

- 1 オリエンテーション、家事の意義と目的、食生活と栄養
- 2 家事に関する基礎知識、食生活と食品成分、食生活の衛生と安全について
- 3 高齢者の身体的・生理的特徴と食生活の特徴、高齢者のための調理の基本
- 4 高齢者の身体的・生理的特徴と食生活の特徴、高齢者のための調理の基本
- 5 家事の介護の基本、家事の介助の方法
- 6 基本料理(常食 和食)
- 7 基本料理(常食 和食)
- 8 基本料理(常食 洋食)
- 9 糖尿病食
- 10 減塩食
- 11 骨粗鬆症を予防する食事
- 12 軟菜食
- 13 介護食
- 14 献立作成
- 15 自主献立実習(グループ別の提出献立による実習)

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392039			
科目名	介護過程 I	年次配当	1 年次
担当者	久山 かおる	開講時期	前 期
所 属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	演習		
単 位 数	2 単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<b>授業概要</b> 自立支援と人間としての尊厳の保持の観点から介護過程の意義と目的を理解していく。
<b>到達目標</b> ・介護過程の展開に基づいた生活支援が、利用者の尊厳を守るケアや個別ケアを実現することにつながることを理解する。 ・介護過程を展開する基礎的な知識を習得する
<b>教材</b> 教科書(テキスト) 介護福祉士養成講座編集委員会(編)「介護過程」 中央法規 テキスト以外 プリント、ビデオなど
<b>評価方法</b> 提出物 70%、授業態度 30%
<b>学生に対するメッセージ (準備学習等)</b> 自らの思考の過程を振り返ることもします。積極的な授業参加を望みます。

1 介護過程の意義と目的	16 アセスメント 1
2 介護過程とは何か	17 アセスメント 2
3 介護過程とは何か	18 アセスメント 3
4 生活支援の考え方と介護過程の必要性 1	19 ケアプランの作成 1
5 生活支援の考え方と介護過程の必要性 2	20 ケアプランの作成 2
6 介護過程の理解	21 ケアプランの作成 3
7 介護過程のプロセスとは	22 ケアカンファレンス
8 生活支援システムの一環として展開される介護過程	23 ケアカンファレンス
9 生活支援システムの一環として展開される介護過程	24 実施
10 生活支援システムの一環として展開される介護過程	25 モニタリング
11 介護過程におけるヒューマニティとサイエンスの結合	26 評価
12 介護過程の体系 1	27 ICF を介護過程にどう生かすか
13 介護過程の体系 2	28 ICF を介護過程にどう生かすか
14 支援関係の形成 1	29 ICF を介護過程にどう生かすか
15 支援関係の形成 2	30 授業の振り返り

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392020			
科目名	介護実習 I	年次配当	1年次
担当者	井手添 陽子	開講時期	前期
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	実習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<b>授業概要</b>	
<p>認知症対応型共同生活介護で、利用者に関わり、認知症のある人を理解する。 訪問介護員に同行し、地域での暮らしを支える訪問介護を体験する。</p>	
<b>到達目標</b>	
<p>利用者との関わりを通して、様々な生活の場における利用者及びその生活を理解する。 地域での暮らしを支える支援(訪問介護・認知症対応型共同生活介護)を体験し、理解する。</p>	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト)	<p>テキスト以外 介護実習日誌 介護福祉士養成講座編集委員会(編)「介護総合演習」中央法規</p>
<b>評価方法</b>	
<p>実習施設・事業所の評価に基づき評価 100%(必要に応じて、施設・事業所間での調節)</p>	
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b>	
<p>実習指導者の助言を得て、利用者のニーズに基づく生活援助のあり方を学びます。 利用者の生活の場での実習です。節度ある真剣な態度で積極的に学ぶ姿勢で臨むことが大切です。 実習に向けて自分の健康管理をしましょう。</p>	

<b>授業計画</b>	
1	認知症対応型共同生活介護における実習(3日)
2	〃
3	〃
4	訪問介護事業所における実習(3日)
5	〃
6	〃
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	



専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392046			
科目名	こころとからだのしくみA	年次配当	1年次
担当者	山本 敏雄	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<b>授業概要</b>	
福祉・栄養学を専攻するものにとって最低限必要な医学的知識とそれを取り巻く医療システム等の現状を授業計画に沿って教科書とスライドを使い授業を進める。	
<b>到達目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する。</li> <li>・日常よく遭遇する疾病と医療システムについて理解する。</li> </ul>	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト) 医学一般 福祉士養成講座編集委員会編集 (中央法規出版)	テキスト以外 スライド、プリント
<b>評価方法</b>	
試験80%、授業態度・実技(BLS)20%	
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b>	
<p>これからの少子・高齢化社会においては予防医学を中心とした医学的知識が社会を支えるためにこのほか必要とされる時代になりつつあります。医学的知識は複雑・膨大でしかも急速に発展しており、限られた時間内でそれらの内容をよく理解することは大変です。授業の前に教科書で予習をし、授業もよく聞いてください。</p> <p>最終授業は救急救命士指導のもとに救急医療に必要な蘇生術(BLS)の実習を行います。</p>	

<b>授業計画</b>	
1 医学とは～人体の構造：骨・筋肉	(1章1～2章2)
2 人体の構造～呼吸器	(2章2)
3 人体の構造：消化器～内分泌	(2章2)
4 人体の構造：感覚器～現代社会と疾病：老人性疾患	(2章2～3章1)
5 現代社会と疾病：生活習慣病	(3章2)
6 現代社会と疾病：がん(腫瘍)	(3章3)
7 現代社会と疾病：骨・筋肉・神経疾患～消化器疾患	(3章4～3章5)
8 現代社会と疾病：感染症～腎・泌尿器・甲状腺	(3章6～3章8)
9 現代社会と疾病：難病～障害者医療	(3章9～3章10)
10 リハビリテーション医療	(4章)
11 在宅医療の現状・医事法制	(5章、8章)
12 医療システム・保健医療対策(人口)	(6章～7章1)
13 保健医療対策：地域保健対策の動向	(7章2)
14 救急医療(BLS他)	(5章3)
15 BLS(実習)	



専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392002			
科目名	教育原理特論	年次配当	1年次
担当者	渡部 容子	開講時期	後 期
所 属	幼児教育保育学科	資格選択区分	
授業形態	講義		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

現代の教育のねらいやしくみを教育行政学という分野から概観します。「子どもたちの最善の利益」を実現する教育のあり方を、地方の教育改革の実践から考えます。埼玉県志木市を題材としたテキストの他、ビデオ教材も用い、現代的なトピックスに興味を持てるようにします。

到達目標

学校教育のねらいやしくみを総合的に理解する。また、教育の様々な現代的な話題に興味をもち自ら知ろうと考える姿勢を養う。各論として、保育・幼児教育と小学校の接続について理解する。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
小川正人他編『市民と創る教育改革』日本標準、2006年	配布資料 ビデオ

評価方法

定期試験80%、授業態度・発表20%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

知っていそうでよく知らない教育のしくみ。福祉の問題と共通点も多いですよ。  
テキストは易しくはありませんが、それぞれのトピックは興味深いものだと思います。事前に読んで授業に出席しましょう。

授業計画

- 1 授業オリエンテーション、学校教育の歴史としくみ（1）世界
- 2 学校教育の歴史としくみ（2）日本
- 3 学校教育の歴史としくみ（3）現代の教育改革
- 4 地方における教育改革：埼玉県志木市の場合
- 5 学級編成と教員採用
- 6 少人数学級編成の取組み
- 7 不登校児を含む「ホームスタディー制度」
- 8 通学区域制度の弾力的運用
- 9 「地域立学校」の構築
- 10 特別なニーズをもつ子どもと特別支援教育
- 11 5・6歳児の発達と幼小連携教育
- 12 教育予算の編成と学校配当
- 13 「地域立学校経営協議会」の展開
- 14 海外の教育改革
- 15 まとめと質疑応答

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392004			
科目名	児童文化特論	年次配当	1年次
担当者	齊木 恭子	開講時期	後期
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	3名

<b>授業概要</b>	
<p>広範な領域を持つ児童文化の中から受講生が特に関心のあるトピックを選び、深く掘り下げていく。自由研究。</p>	
<b>到達目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・改めて児童文化（財）を見つめ、認識を深める。</li> <li>・関心のある児童文化財の内容を深め、保育・福祉の場における即戦力、応用力となる知識・技能を習得する。</li> </ul>	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト)	テキスト以外 適宜プリント配布
<b>評価方法</b>	
提出物70%、発表30%	
<b>学生に対するメッセージ</b>	
<p>児童文化（財）とは何か、改めて考えてみましょう。そして、それらが保育や福祉の場でどのように活かせるか。履修者各自が自由に課題を決め、研究に取り組んでみましょう。</p>	

<b>授業計画</b>	
1	保育の場における児童文化（財）を考える
2	〃
3	福祉の場における児童文化（財）を考える
4	〃
5	自由に課題を決めて（課題研究）
6	〃
7	〃
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	〃
15	〃

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392027			
科目名	社会福祉総論Ⅱ	年次配当	1年次
担当者	山田 修平	開講時期	後期
所属	学長	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	2名

<b>授業概要</b>	
<p>社会福祉の全域から、学生自らが課題を設定し、調査、研究、発表し、最終的には400字詰め原稿用紙40枚の論文を作成する。具体的には社会福祉の制度、援助技術、また高齢者、障害者、児童、生活困窮者等に関する様々なテーマ設定が予想される。授業は演習形式で進める。</p>	
<b>到達目標</b>	
<p>学生が主体的に学ぶことにより、介護福祉士として必要な広く、深く、そして真に身に付いた知識を修得する。またこれからの介護現場において求められる、常に探求する姿勢、さらに研究方法を身につける。</p>	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト) 授業の性格上、特に定めない。	テキスト以外 調査、研究、論文作成に必要な各自個別の文献、資料
<b>評価方法</b>	
論文70%、授業中の報告20%、課題ノート10%	
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b>	
<p>本来、学ぶのは受け身ではなく、自ら行う主体的な活動だ。頭だけではなく、足を、手をそして心をフル活動する実践的な活動だ。学ぶ本当の「シンドサ」を、そして「楽しさ」を味わって欲しい。こうした主体的な学びは、プロとしての介護福祉士への確かな一歩であると共に、あなたの人生を豊かにしてくれる筈だ。</p>	

<b>授業計画</b>				
1	授業のねらい、授業の進め方、研究の進め方、論文の書き方			
2	論文企画書(1)提出	第1回報告	5名	ディスカッション コメント
3		同上		
4		同上		
5		同上		
6	論文企画書(2)提出	第2回報告	5名	ディスカッション コメント
7		同上		
8		同上		
9		同上		
10	論文企画書(3)提出	中間まとめと質疑応答		
11		第3回報告	5名	ディスカッション コメント
12		同上		
13		同上		
14		同上		
15	発表会 総まとめ	論文提出	(論文展示)	



専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392030			
科目名	介護の基本B	年次配当	1年次
担当者	久山 かおる	開講時期	後期
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメントそして介護従事者の健康管理などについて学ぶことが、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護につながることを学習していく。

到達目標

チームケアや介護における安全の確保とリスクマネジメントについての重要性を理解する。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
介護福祉士養成講座編集委員会(編) 「介護の基本Ⅱ」中央法規	DVD 参考資料

評価方法

試験70%、提出物30%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

講義のみでなく、グループディスカッションを行い、介護現場の日常に潜む危険を考えていきます。実際に「ヒヤリハットメモ」や「事故報告書」を書いてみましょう。また、それがどのように活かされていくのかも考えていきます。

授業計画

- 1 介護実践における多職種(チームアプローチ)の意義と目的
- 2 地域連携
- 3 介護における安全の確保
- 4 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメント
- 5 事故防止、安全対策の基礎と実際
- 6 演習を通して事故防止を考える。
- 7 生活の場・高齢者介護施設での感染対策
- 8 感染対策の基礎知識とリスクマネジメント
- 9 感染症発生時の対応
- 10 手洗い演習と感染防止についての検討(グループワーク)
- 11 介護従事者の健康と安全
- 12 健康管理の意義と目的
- 13 健康管理に必要な知識と技術
- 14 安心してはたらく環境づくり
- 15 まとめ、介護福祉士を目指す皆さんへ

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392011			
科目名	リハビリテーション論	年次配当	1年次
担当者	佐伯 秀宣 他	開講時期	後 期
所 属	非常勤講師	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	講義		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

リハビリテーション分野における介護福祉士の役割、また基礎的な理念と障害について教授する。

到達目標

リハビリテーション分野における介護福祉士の役割の理解ができ、対象者への自立に向けた関わり方が分かるようになる。

教材

教科書(テキスト)

山本和義「福祉領域のリハビリテーション論」  
医歯薬出版  
黒澤貞夫「ICEをとり入れた介護過程の展開」 健帛社

テキスト以外

竹内孝仁「リハビリテーション概論」 建帛社  
砂原茂一「リハビリテーション」 岩波新書

評価方法

課題発表 80%、授業態度 20%

学生に対するメッセージ (準備学習等)

近年、リハビリテーション分野においての介護福祉士の役割が重要視されてきています。世間の期待に応えられるような介護福祉士になれるよう頑張ってください！

授業計画

1	リハビリテーション総論	佐伯秀宣
2	医学的リハビリテーション・工学的リハビリテーション	佐伯秀宣
3	社会的リハビリテーション	佐伯秀宣
4	職業的リハビリテーション	佐伯秀宣
5	教育的リハビリテーション・知的障害	佐伯秀宣
6	ICFを使用時の対象者の捉えかた 1	佐伯秀宣
7	整形外科疾患に対するリハビリテーション	佐伯秀宣
8	中枢疾患に対するリハビリテーション	佐伯秀宣
9	高次脳機能障害・精神障害に対するリハビリテーション	西村純一
10	認知症に対するリハビリテーション	山田千恵
11	嚥下・構音障害に対するリハビリテーション	西村花枝
12	起居動作・移動を中心とした援助法	佐伯秀宣
13	ICFを使用時の対象者の捉えかた 2	佐伯秀宣
14	課題発表・まとめ	佐伯秀宣
15	課題発表	佐伯秀宣

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392038			
科目名	終末期の介護	年次配当	1年次
担当者	久山 かおる	開講時期	後期
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

日常生活の中で、学生が死に直面する機会は少ない。文献、家族の体験を聞くことやディスカッションにより、自らを振り返り死生観を養う。また、終末期ケアの流れとケア方法を知る。

到達目標

介護の延長線上における終末期ケアが増えるなかで、医療職をはじめとして他の職種と協働して利用者の終末期ケアに関わる機会は増加する。そのために必要な知識、技術を取得する。また死生観を養う。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
「こころとからだのしくみ」	DVD、参考資料
「生活支援技術Ⅱ」	

評価方法

レポート60%、ミニテスト30%、授業態度10%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

死を学ぶことにより、今の生を考えます。自らの死生観を養っていきます。ビデオなどを視聴し、ディスカッションの時間を多く取っていきます。

授業計画

- 1 終末期ケアの意義
- 2 制度と在宅・介護福祉施設における看取りケアの考え方・チームケア
- 3 死生観1
- 4 死生観2
- 5 死生観3
- 6 基本的ケアと技術
- 7 基本的ケアと技術
- 8 ステージごとのケア
- 9 家族の支援
- 10 危篤時のケア
- 11 危篤時のケア
- 12 死後のケア
- 13 グリーフケア
- 14 グリーフケア
- 15 授業の振り返り

専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392040			
科目名	介護過程Ⅱ	年次配当	1年次
担当者	米原 あき	開講時期	後期
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<b>授業概要</b>	
ICFの概念を取り入れ、利用者の潜在能力を引き出し、活用・発揮することの意義について、演習を繰り返しながら学んでいく。利用者の情報収集からニーズを抽出し、個別の生活課題を解決することの大切さを理解する。	
<b>到達目標</b>	
介護過程の「アセスメント力」を身につける。アセスメントシートを活用しながら、思考過程のプロセスを順序立てて理解し、情報の分析・統合化とニーズの抽出ができるまでの、介護の専門能力を身につける。	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト) 介護福祉士養成講座編集委員会(編)「介護過程」中央法規	テキスト以外 資料・ビデオ
<b>評価方法</b>	
授業態度10%、提出物90%	
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b>	
介護過程Ⅰを基本に「介護過程」の思考過程を、具体的な事例を通して示していきます。演習を通じて思考過程のトレーニングを何度も繰り返し、コミュニケーション力・分析力・書く力を養います。	

<b>授業計画</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護福祉士の専門性と介護過程</li> <li>2 フェイスシート</li> <li>3 アセスメント「情報収集」演習①</li> <li>4 アセスメント「情報収集」演習②</li> <li>5 アセスメント「情報の解釈・分析・統合」演習①</li> <li>6 アセスメント「情報の解釈・分析・統合」演習②</li> <li>7 介護計画の「課題」演習①</li> <li>8 介護計画の「課題」演習②</li> <li>9 介護計画の「長期・短期目標」演習</li> <li>10 介護計画の「援助の内容・方法」演習①</li> <li>11 介護計画の「援助の内容・方法」演習②</li> <li>12 介護計画の「実施」演習</li> <li>13 介護計画の「評価」演習</li> <li>14 「介護過程」展開事例①</li> <li>15 「介護過程」展開事例②</li> </ol>



専攻科 福祉専攻科目 シラバス

392021			
科目名	介護実習Ⅱ	年次配当	1年次
担当者	井手添陽子・米原 あき	開講時期	後期
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	介護福祉士資格必修
授業形態	実習		
単位数	4単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

第一段階は、生活を支援する施設の機能・役割と、その施設での利用者の生活を理解する。  
第二段階は、第一段階を基に、利用者の個別性を理解し、自立支援のための介護過程の展開を具体的に学ぶ。「介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の学習を実習での取り組みでより具体的に学ぶ。

到達目標

利用者の個別性を理解し、個別ケアが実践できる生活支援技術を取得する。チームケアについて理解し、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。個別ケアを実践するための介護過程の展開について事例を通して理解する。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

介護実習日誌 介護福祉士養成講座編集委員会(編)  
「介護総合演習」「介護過程」中央法規

評価方法

実習施設の評価に基づく評価100% (必要に応じて施設間で調整)

学生に対するメッセージ(準備学習等)

礼儀をわきまえ、わからないことがあったら質問するなどの積極的な態度で実習に臨んでください。

授業計画

- 1 第一段階 6日間
- 2 ・高齢者・障がい者を支援する施設の機能役割を理解する。
- 3 ・利用者との関りを通して、利用者とその施設での生活を理解する。
- 4 ・施設で行われている生活支援技術を体験的に学ぶ
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9 第二段階 18日間
- 10 ・第一段階を踏まえた学習を展開する
- 11 ・利用者の個別性を理解し、自立支援のための介護過程の展開について学ぶ
- 12 ・夜勤業務の体験を通して利用者の夜間・早朝を含めた生活の状況を理解する
- 13 ・他職種との連携・チームケアの在り方を学ぶ
- 14
- 15

